

沖縄次世代委員会

若い世代の意見を県政に ～沖縄次世代委員会～



左から森弘達さん・長濱為一さん

各委員のコメント(有志のみ)

森弘達さん

(昭和薬科大学付属高校教諭)

・活動を終えての感想はいかがですか。
私は高等学校で政治・経済を生徒たちに教えるとともにNPO法人で政策ディベートを教えています。
このような活動をする中で、微力ながら沖縄の問題解決をお手伝いしたく、沖縄次世代委員会委員に応募しました。委員として県職員やさまざまな分野で活躍されている民間委員とともに活発に議論し、提言をまとめたことは、今後、教育活動を行っていく上で大変貴重な経験となりました。

また、委員全員で廃棄物処理施設やリサイクル施設などの現場視察を行ったことも提言をまとめる際に役立ちました。さらに、稲嶺知事が委員会の会合すべてに参加して、委員の発言を真剣に聴いていただいたことに知事の県政への熱い思いを感じました。

長濱為一さん

(県職員 環境整備課)

・活動を終えての感想はいかがですか。
私は県庁入庁前に民間で勤めた経験が長く、その立場で県政と関わってきたため、次世代委員会については、開始された三年前から興味があり、機会に恵まれれば是非参加したいと考えていました。今回のテーマ「循環型社会の形成」については、まさに担当業務であるため逆に躊躇しましたが、これも巡り合わせなのだと思いついて応募しました。
各委員の意見の取りまとめにあたっては、提言する側になったり、担当課として提言を受ける側で考えたり、多少複雑でしたが、二十一年後の担当者(驚かそう)を合言葉に、内容の濃い提言書ができたのではないかと自負しています。

藤原昌樹さん

(国際リサーチ研究所 所長)

・次世代委員会に参加しようと思った理由は何かですか。
もともと大学、大学院で開発経済論を専攻していて、「沖縄の開発と環境」は自分の研究の中心テーマの一つとなっています。
県のホームページで「循環型社会形成に向けて」というテーマでの次世代委員会の募集を知り、自分の研究にとってもプラスになるのではないかと思い、参加することを決意しました。また、稲嶺知事と直接話をする機会が得られるというのも魅力でした。
・活動を終えての感想はいかがですか。
一年間の次世代委員会の活動で、とてもいい経験をさせてもらったと思っています。次世代委員会をきっかけに多くの人々と知り合うことができたので、その方々と今後も交流を続けていきたいですね。



藤原昌樹さん

儀間俊江さん

(県職員 県観光企画課)

・次世代委員会に参加しようと思った理由は何かですか。
大学時代、「リサイクル」について学んだことがあり、ゴミ処理の現場やリサイクルの現場を見学して以来、ゴミ問題に興味を持っていました。今回のテーマを期に、現状を知り、他の意見を聞き、議論する場に参加したいと思ったのがきっかけです。



儀間俊江さん

若い世代の意見を県政に

県庁に意見を述べたことはあるでしょうが、経験のある方でも、さすがに知事の前でじっくりと、というのはめったにいらっしゃらないでしょう。
しかし、県政の具体的なテーマで、しっかりした意見を持つ若い方なら、それはできるかも知れません。沖縄次世代委員会に参加すれば、です。

若い世代の忌憚のない意見を聞き、その中で良いものは県政に反映したいとの知事の思いから、県は平成十三年度から沖縄次世代委員会という制度を始めました。おおむね四十歳以下の公募で選ばれた民間及び県職員が、知事の前で意見を交換するものです。例年、一回二時間近く、数回に渡り、具体的なテーマについて議論しています。
毎年新しいテーマを設定し、そのつど委員の募集を行っています。初年度のテーマは「自立経済のための人材育成のあり方」、次が「新たな沖縄観光の展開について」、そして今年度が「循環型社会形成に向けて」でした。

委員会の運営は委員達にゆだねられています。民間からの委員はテーマに関係のある業界であるか否かに関わらず選ばれています。県職員からの委員も、テーマと関係のある部署であるか否かにかかわらず、個人の立場で参加しています。委員達が

自由に意見交換できる仕組みになっているのです。
知事は、公務多忙な中でも必ずまとまった時間を確保し、各委員の議論を聞き、自らの意見も述べています。

知事へ渡された提言書

十一月二十八日、リサイクル企業社員や市民団体職員、教師、主婦など民間五人と県職員五人、合計十人の平成十五年沖縄次世代委員会は、稲嶺知事へ「循環型社会形成に向けて」と題した提言書を手渡しました。それぞれの視点・意見を持つ十人が、半年近く議論し、まとめたものです。「概論」、「発生抑制」、「分別・環境ビジネス・処理」、「研究・教育・人材育成」といったテーマでくくられ、様々な具体的な提案が盛り込まれています。
事務局である県は、提言書や報告書など成果物の作成や提出を義務づけていません。しかし例年、委員が自主的に同様のものを作成し知事へ渡しています。

例年知事へ提出された提言は、県の関係部局がそれぞれ検討し、施策展開のヒントとなったり、具体的な施策・事業として始まったものもあります。
次世代委員会は、若い世代の夢や意見・提言を県政に反映させうる場になってきています。

・「自身の担当業務とは別の分野・別の業務に、委員という個人の立場で参加したことは、県庁職員であるあなたに何らかの影響を及ぼしましたか。」

議論していく中でいろいろな問題点があることがわかりましたが、どうして実行できないのかを聞く中で、問題解決の難しさを改めて知り、「職員」と「委員」という立場の違いにたまごいを感じました。しかし、目の前の問題にとらわれず、どう理想をもって業務を行っていくかが重要だと再認識するよい機会となりました。

委員の方々の意見はバラエティに富んでおり、会合の度に感心させられました。特に民間委員の方々からの意見は、施策的なものにとられない、大きな概念的なもの(リサイクルは循環型社会の形成に果たして有効なのか?)から、生活に密着したもの(マイバッグを利用した際のポイント商品をもっと考えてほしい、など)まで様々で、常に新しい意見をさせていただきました。このネットワークをこれからもつなげていけたら、と考えています。

鹿谷麻夕さん

(沖縄自然体験活動協会事務局 運営委員)



次世代委員会での稲嶺知事

公式会議も数をこなしたので、充実感のある活動でした。様々な分野の方(県庁職員を含め)と出会う、交流を深められたことは私の財産となりました。

・次世代委員会に参加する前と今で、県庁や県職員へのイメージは変わりましたか。変わったのであれば、どう変わりましたか。

県庁や県職員とは直接的な接点が極端に少ないため、特にイメージを持っていませんでした。前回、今回と次世代委員会に参加して、私自身を持ったイメージとしては、「県庁には多くの有効な活用方法があり、職員はそれに精通している。」と言うことです。公務員にありがちな悪い意味でのお役所的なところはまった

・活動を終えての感想はいかがですか。今回のテーマには幅広さも奥行きもあり、最初は話をどのようにまとめるのか迷いがありました。しかし委員の皆さんと議論する中で、沖縄の現状を何とかしたいという強い思いを共有できるよつになつたと感じます。ごみ問題は困難な課題をいくつも抱えており、まごめた提言にもまだ詰め足りない部分が多いことと思います。しかし、県と民間の若手の皆さんが自由に意見を交わす中で、いろいろな視点を得ることができました。沖縄県には、問題に目を背けることなく、一歩ずつでも真の循環型社会を目指して具体的な行動



現場視察の様子

いを共有できるよつになつたと感じます。ごみ問題は困難な課題をいくつも抱えており、まごめた提言にもまだ詰め足りない部分が多いことと思います。しかし、県と民間の若手の皆さんが自由に意見を交わす中で、いろいろな視点を得ることができました。沖縄県には、問題に目を背けることなく、一歩ずつでも真の循環型社会を目指して具体的な行動

くなく、とても親しみやすいという印象を持ちました。

・次世代委員会の活動で、思い出に残るエピソードはありますか。

稲嶺知事とツーショットの写真を撮れたことです。懇親会の席で食事をしながら知事のさつくばらんなお話を伺う事が出来、突然の記念写真の撮影にも快く応じていただけました。

また、ラジオにも出演しました。平成十五年の次世代委員会のテーマは「循環型社会の形成に向けて」でした。ラジオ沖縄で環境をテーマにしている番組があり、事務局を通じて出演の打診がありました。初めての経験でしたので、どうなることかと、かなり心配しましたが、藤原委員の協力で無事収録することが出来ました。

・職場や家庭の方々は、今回のあなたの活動をどう評価していますか。

一番の理解者は夫です。「県外出身者が沖縄県政の運営に係われるなんて素晴らしいことだ」とかなり高く評価してくれています。また、東京在住の家族は、「沖縄県の次世代を担っていくんだね」と、過度な期待を寄せるとともに、県知事が全会議の最初から最後まで出席すると言うことをとても高く評価していました。

をとってほしいと願います。

自分の生活の中では、ごみの減量や環境負荷についてもっと工夫できることがないか探そうになりました。また、環境教育のNPO活動にも協力するよう努めており、自分の仕事の中でも、常にごみや環境問題についての視点をもって活動していくようにしたいと考えています。

・次世代委員会の活動で、思い出に残るエピソードはありますか。

私を含め、委員の多くは循環型社会の問題について素人でした。そこで、まずは自分たちが現状を知らないけれどということ、みなで県内のリサイクル施設や廃棄物処理の現場を見て回りました。ごみ問題の現実の厳しさに直面する一方、リサイクル産業に関わっておられる方々の前向きな姿勢にも学ぶところが多いと感じました。この視察のおかげで、その後の委員会での発言や提言内容も、素人なりではありますが、より具体的なイメージをもって考えることができるようになったのではないかと思います。

川口ひとみさん

(主婦)

・次世代委員会に参加しようと思った理由はありますか。

前回(平成十四年)も次世代委員

・次世代委員会に参加したことは、「ご自身の職業や生活に何らかの影響を及ぼしましたか。」

小さなことですが、マイバッグの利用が加速しました。以前から愛用していましたが、提言事項の一つなので、マイバッグを持参しない買い物はしなくなりました。また、テレビや新聞などで「環境」とか「循環型社会」と言う言葉が使われていると、敏感に反応するようになり、他府県や他国の動向にも注目するようになりました。

・今回の委員会の提言が、県政の運営に何らかの形で生かされるなら、どう思われますか。

通常では考えられないことではないでしょうか。県職員でない者の提言が県政の運営に生かされることは異例なことだと思います。それが実現することにより、自分を含めた周囲の人たちの県政に対する注目度はかなり高くなります。提言に関して責任も伴うという、身の引き締まる思いです。



左から川口ひとみさん・鹿谷麻夕さん



平成16年度 沖縄次世代委員会メンバー募集

今年も募集します。ぜひご応募下さい。

- テーマ 『沖縄ブランド』の確立に向けて
任期 今年2月から1年(5回程度、会議を開催します)
対象 おおむね40歳以下の県内在住者で、上記のテーマに建設的な意見を述べられる方
応募方法 上記テーマで書いた提言及び履歴書を郵送してください。提言は、A4縦の白紙にワープロ横書きで、1000~2000字で書いてください。履歴書は市販のもので結構です。締切りは2/13(金)当日消印有効です。

その他、詳しくは下記へお問い合わせ下さい。

申込み先及びお問い合わせ
県企画調整室
TEL.098-866-2026 FAX.098-866-2351
〒900-8570 那覇市泉崎1-2-2